ま　え　が　き

このたびは、スバルジェネレータをお買上げいただき、まことにありがとうございます。
この説明書には、スバルジェネレータを上手に安全にご使用いただき、常にご満足いただける性能を発揮させる上で必要なことをまとめてあります。ご使用前に全て熟読し、正しい取扱いをされますようお願い申し上げます。
取扱説明書は大切に保管し、いつでも見られるようにしておいてください。
尚、ご不明な点がありましたら、お買い上げの販売店にご相談ください。
※保証書は、裏面の販売店名と捺印をご確認のうえ、大切に保存してください。
またお手持ちの発電機のPROD No.及びSER No.を下記の空欄に記入しておきましょう。補用部品をご注文される場合に便利です。なおPROD No.及びSER No.の貼付個所は5頁を参照してください。

PROD NO.

SER NO.

※仕様変更などにより内容が一部実機と異なる場合があります。ご了承下さい。

エンジンオイルとバッテリ液が入っておりませんので、ご使用前に必ず注入してください。

SUBARU

目　　次

ページ

1．安全にお使いいただくために……1
2．仕様諸元……3
3．各部の名称……4
4．運転を始める前に……6
5．発電機の運転のしかた……8
6．定期点検……15
7．整備要領……17
8．長期保存のしかた……19
9．故障のときは……20
　配　線　図……22

1．安全にお使いいただくために

・この取扱説明書では、安全注意事項のランクを「危険」「注意」として区分してあります。

危険：取扱いを誤った場合に、危険な状況が起こりえて、死亡又は重傷を受ける可能性が想定される場合。

注意：取扱いを誤った場合に危険な状況が起こりえて、中程度の傷害や軽傷を受ける可能性及び物的損害だけの発生が想定される場合。

なお、注意に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結びつく可能性があります。

いずれも重要な内容を記載していますので必ず守ってください。

危険
- 排気ガス中毒のおそれあり／換気の悪い場所で使用しないでください。
- 感電のおそれあり／ぬれた手でさわらないでください。
- 感電のおそれあり／コンセントにピンや針などの金属物を入れないでください。
- けがの恐れ有り／回転部に棒や針金を入れないでください。
- 感電やけがのおそれあり／運転中、点検整備を行わないでください。
- 感電やけがのおそれあり／改造は絶対しないでください。

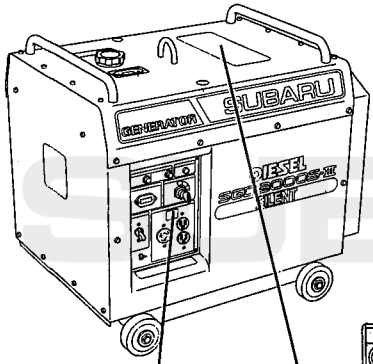
注意
- 警告ラベルを汚したり、はがしたりしないでください。
- 感電のおそれあり／雨中で使用しないでください。
- 感電のおそれあり／溶接機として使用しないでください。
- 感電、火災のおそれあり／屋内配線に接続しないでください。
- 感電、けがのおそれあり／子供に使用させないでください。
- 感電、けがのおそれあり／始動時、電源プラグが抜いてある事を確認してください。
- 排気ガス中毒、火災のおそれあり／建物、設備に排気を向けないでください。
- やけどのおそれあり／マフラーにさわらないでください。
- けがのおそれあり／傾斜して使用しないでください。
- けがのおそれあり／運転中、移動しないでください。
- けがのおそれあり／つり下げる場合は、つる位置に注意してください。
- 火災のおそれあり／火気厳禁。
- 火災のおそれあり／可燃物のそばで使用しないでください。
- 火災のおそれあり／給油中はエンジンを停止してください。
- 火災のおそれあり／過負荷で使用しないでください。
- 火災のおそれあり／周囲を囲ったり、箱をかぶせて使用しないでください。
- 火災のおそれあり／燃料の種類と規定量にご注意ください。
- 他人に貸す時は必ず取扱説明書を添付してください。

SUBARU

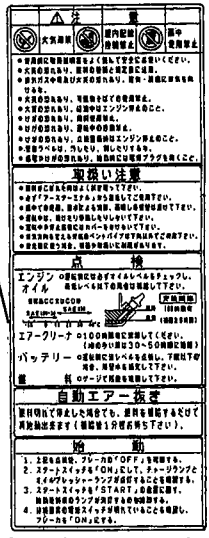
その他の注意

・地盤の軟い所や、小石、土砂利などで凸凹している所では使用しないでください。
・カバー類を外したまま使用しないでください。
・使用中に音、臭気、振動などで異常を感じたら、直ちにエンジンを停止して販売店の点検を受けてください。
・仕業点検・定期点検は必ず実施してください。

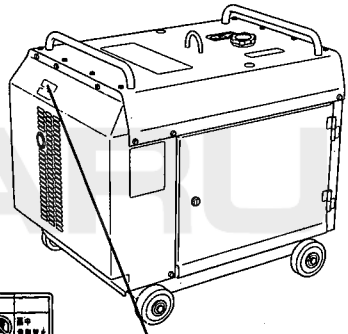
・当社発電機には下記に示す場所に、特に重要な注意事項に対し注意ラベルが貼付されています。使用に際しては、十分に理解の上守ってください。
・注意ラベルが見えにくくなった場合や、はがれた場合には貼りかえてください。



部品番号 0732004670



部品番号 3939401903



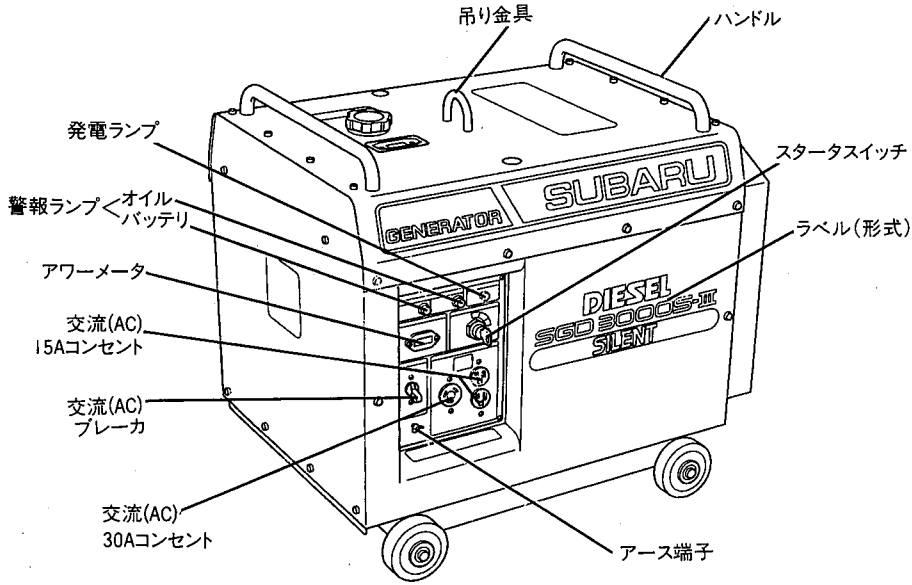
部品番号 0732004650

2. 仕 様 諸 元

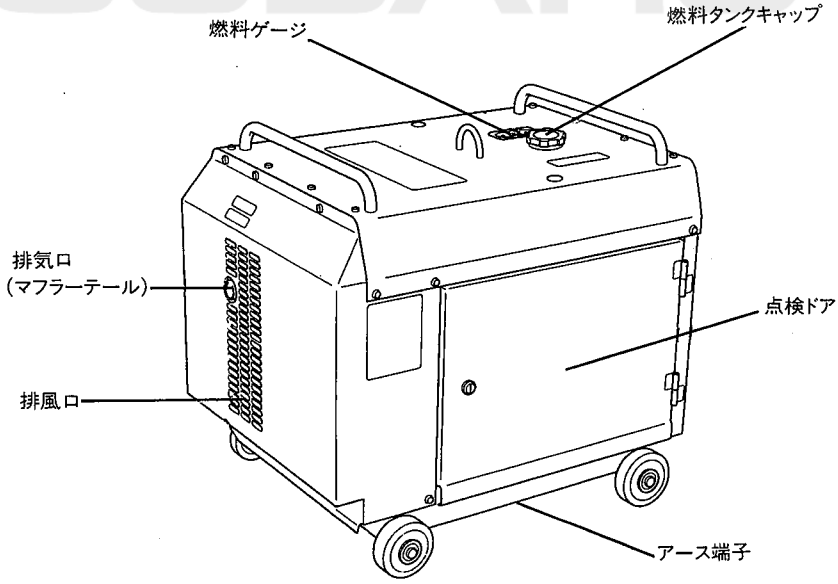
名称			SGD2200S-Ⅲ		SGD3000S-Ⅲ	
エンジン	型式		空冷4サイクル、ディーゼルエンジン			
	総排気量 cm³(cc)		230		265	
	使用燃料		JIS 2号軽油			
	燃料タンク容量(L)		11.5			
	潤滑油量(L)		0.9			
	始動方式		セルスタータ方式			
	定格連絡運転時間(h)		14.0	12.0	10.5	9.0
発電機	型式		2極回転界磁形単相交流発電機			
	励磁方式		自己励磁式			
	電圧調整方式		コンデンサ式			
	交流	周波数(Hz)	50	60	50	60
		定格電圧(V)	100			
		定格出力(W)	2050	2200	2700	3000
	力率		1.0			
装備	交流出力端子		標準2連コンセント×1、引掛式コンセント			
	過電流保護装置		ノーヒューズブレーカ			
	(警告表示灯付)オイル不足検知装置		有			
	(警告表示灯付)充電不良探知装置		有			
	自動エアー抜き装置		有			
	バッテリー逆接続保護装置		有			
	アワーメータ		有			
	発電表示ランプ		有			
	燃料ゲージ		有			
全長×全幅×全高(mm)			722×567×667			
ホイールベース×トレッド(mm)			500×505			
乾燥質量(kg)			116		120	

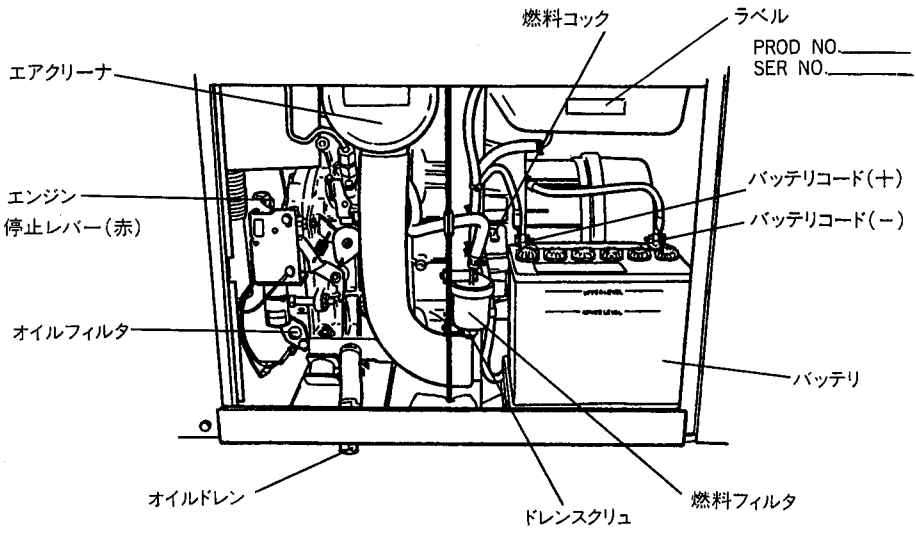
SUBARU

3．各部の名称



SUBARU




燃料コック
ラベル
PROD NO.
SER NO.
エアクリーナ
エンジン
停止レバー(赤)
バッテリコード(+)
バッテリコード(−)
オイルフィルタ
バッテリ
オイルドレン
ドレンスクリュ
燃料フィルタ

SUBARU

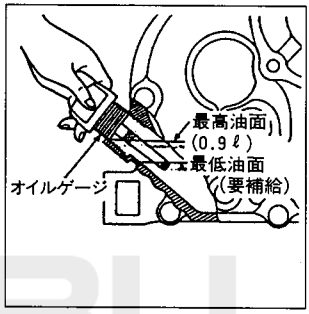
4. 運転を始める前に

1 エンジンオイルの点検・補給

オイルゲージを外してエンジンの点検を行います。

・オイルが少ないときには、発電機を水平に置き新しいオイルをオイルゲージの上のきざみ線まで入れてください。(オイルゲージはねじ込まない。)
オイルは入れ過ぎないようにしてください。

・オイルの汚れが著しいときは交換してください。



SUBARU

オイル規程量（最高油面）

SGD2200S-Ⅲ
SGD3000S-Ⅲ　0.9ℓ

・オイルは次の粘度のロビン純正オイル又はディーゼルエンジンオイルを使用してください。

SAE　#30（10～40℃）

SAE　10W-30（-15～20℃）

・エンジンオイルの質および量の低下は焼付きトラブルをまねきます。オイルの品質はCC級又はCD級のものをご使用ください。

(1)エンジンオイルの質および量を低下させると焼付き損傷をまねきます。

(2)オイルの点検・補給は発電機を水平に置いて行ってください。

(3)エンジンオイルの入れ過ぎはエンジン回転オーバー等の危険と損傷をまねきます。

2 バッテリ液の注入

・キャップが封印されていることを確認します。

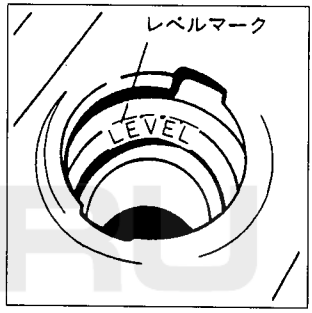
・封印を外し、キャップを外して付属のバッテリ液を上限マークまで注入します。

(1)注入後はガスの発生が静まるまで点検扉を開放しておくか、外部に取り出し作業してください。
(2)液がこぼれたら速やかに拭きとってください。
(3)バッテリ液が燃料フィルターに付着すると表面が溶けて、穴があき、燃料洩れの原因になりますので、注入の際には注意して下さい。
(4)バッテリ液が皮膚に付着すると表面が溶けてしまいます。又、衣服に付着すると穴があいてしまいます。
(5)発生ガスは絶対に吸い込まないでください。

3 燃料の補給 火気厳禁

・燃料ゲージおよび、燃料タンク内の燃料レベルマークを見て補給してください。
（燃料はタンク注入口レベルマーク以上いれないでください。）

燃料ゲージ表示	燃料容量
1：全域「赤」	約11.5ℓ
0：全域「白」	約3.8ℓ



タンク容量	11.5ℓ
使用燃料	JIS 2号軽油

給油時、火気には十分注意してください。
・給油時は必ずエンジンを止めてください。
・燃料はきれいな自動車用軽油（JIS 2号）を使用してください。
・ドラム缶の底には水、異物が多く蓄積していることがありますので知らずに入れると噴射ポンプ、ノズルを焼付かす場合があります。

4 発電機周囲の点検

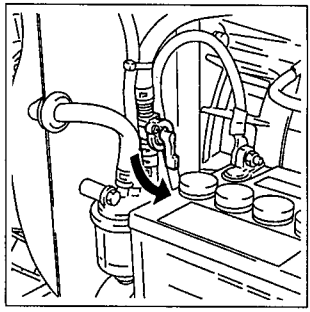
・発電機のまわりの燃えやすいものや、危険物は取り除いてください。
・建物その他設備から1m以上離してください。
・風通しは良いか。換気の悪いところで使用しないでください。
・排気口は風通しの良い場所に向けてください。
・周囲の火の気は取り除いてください。
・発電機は地盤が硬く平坦な、安定した場所に設置してください。
・発電機をダンボールなどで囲わないでください。

5 使用する電気器具の接続を切ってください

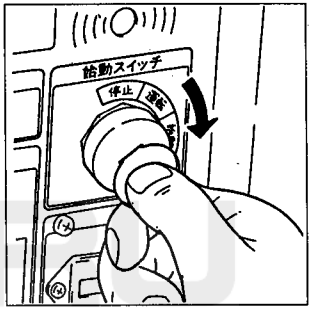
発電機にスイッチの入ったままの電気器具が接続していますと、発電機の始動困難・発電困難になることがあります。また、電気器具が不意に作動を始めるので大変危険です。
発電機を始動する前に必ず、接続電気器具のスイッチを切るかコンセントを抜いてください。

5. 発電機の運転のしかた

1 始動



(1)オイル、燃料を点検します。
(2)点検ドアを開け、燃料コックが「OPEN」の位置になっていることを確認します。
(3)電気器具の接続コンセントが抜いてあるか確認します。
(4)エンジンの始動
・キーをスタートスイッチに差し込み「ON」の位置に廻し、「バッテリ警告灯」と「オイル警告灯」が点灯することを確認します。
・「START」位置に廻し、エンジンを始動します。
・始動しない場合は5秒を限度にセルモータを廻し、10秒間位待ってから再始動してください。
・運転中はスタートスイッチを「START」位置には絶対に廻さないでください。



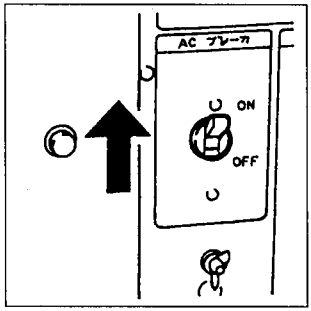
(5)始動後、バッテリ警告灯とオイル警告灯が消灯することを確認します。

〔注記〕

(1)購入後最初に運転するときや、点検・修理で燃料を抜き取ったときに行うエアー抜き作業は、自動エアー抜き機構付のため不要です。燃料補給後、1分程待ってから始動してください。

(2)スタートスイッチを「ON」の位置にして、「バッテリ警告灯」「オイル警告灯」が点灯せず問題なく運転できる場合には、電球切れですので純正品または、相当品（18V-3W）に交換してください。

2 交流（AC）の取り出し方



(1)発電ランプが点灯していることを確認します。
(2)電気器具のスイッチが切れていることを確認してからプラグを交流コンセントに接続します。
(3)AC（交流）ブレーカが「OFF」になっている場合「ON」にしてください。
(4)アース端子に接地線を接続します。

使用する電気器具をアースしたときには、発電機本体もアースしてください。

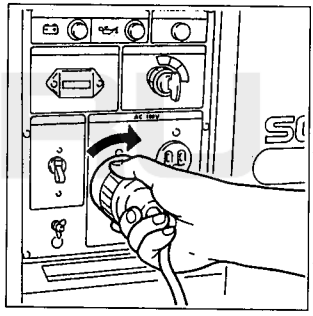
⑸電気器具のスイッチを入れて使用してください。

	このコンセントは1個で15Aまでです。		引掛式ロックコンセントは定格出力までです。

コンセントは3個合計で下記の定格出力容量以下で使用してください。

SGD2200S-Ⅲ：50Hz　2050W（20.5A）
　　60Hz　2200W（22A）
SGD3000S-Ⅲ：50Hz　2700W（27A）
　　60Hz　3000W（30A）

- **引掛式（ねじ込み式）ロックコンセントを使用する場合、プラグをコンセントに差し込み、右に回してロックしてください。**
- **使用中コンセント部分が異常に熱くなっていないことを確認してください。**



3 器具の使用範囲

電気製品には、普通電圧・周波数等を表示したラベルが貼ってあり、その中に消費電力（入力電力）が記入されいます。その消費電力が電気製品を使う場合に必要な電力です。しかし、発電機を電源として電気製品を使用する場合には、さらに力率や起動電流を考慮しなくてはなりません。

電気器具		使用範囲			
		SGD2200S-Ⅲ		SGD3000S-Ⅲ	
		50Hz	60Hz	50Hz	60Hz
白熱電球、電気器具など	(W)	2050	2200	2700	3000
螢光灯、電動工具（整流子モータ）	(W)	1000	1100	1400	1600
水銀灯メタルハライド灯(高力率安定器)	(W)	1600	1600	1600	1600
汎用モータ	(W)	400	400	750	750

(1) 3ヶ所の交流コンセントを同時に使用するときには、使用する器具の消費電力の合計が上表の値を越えないように注意してください。

(2)電動工具などモーターを使用した器具は、起動電流が大きい場合があり、3～5倍の電力(W)が必要であり、非常に起動電流が大きいものや、器具の運転状態によっては使用できないことがあります。このような場合には、お買上げの販売店にご相談ください。

(3)電気器具の消費電力が使用範囲を越えた場合、または、電気器具に異常（ショート等）があった場合には、ACブレーカが「OFF」になるか、または「OFF」にならず、発電機の回転が異常に低くなったりして、使用器具が正常に働かなくなることがあります。このような時には、使用器具の消費電力や器具に異常がないかを点検した後ACブケーカが「OFF」になっている場合には「ON」にしてください。ブレーカが頻繁に「OFF」になる時は、お買上げの販売店にご相談ください。

(4)アース端子に、アース線を接続して先端を地中にアースします。
使用する電気器具をアースしたときは、発電機本体も必ずアースしてください。

(5)周波数は出荷時に調整してあります。周波数を変えると、発電機にダメージを与えることになりますので、故意に変えないでください。

(6)長い電線を使用すると、電線内の抵抗が大きくなるため、電圧降下が起こり、電気製品への入力電圧が低くなります。その結果、電気製品にダメージを与えたり、運転が出来ない場合がありますので注意が必要です。

SUBARU

断面積 mm²	許容電流 A	電線30m使用時の電圧降下					
		5A	10A	15A	20A	25A	30A
1.25	12	4.5V	8.9V	*	*	*	*
2.0	17	2.8V	5.7V	8.6V	*	*	*
3.5	23	1.6V	3.1V	4.7V	6.2V	*	*
5.5	35	1.0V	2.0V	3.0V	4.0V	5.0V	6.0V

1)コード・リールは着いたまま使用するとさらに電圧降下しますので、全部引き延ばして使用してください。

2)コード・リールは、機器容量に適合したものをご使用ください。

(7)投光機に使用する場合

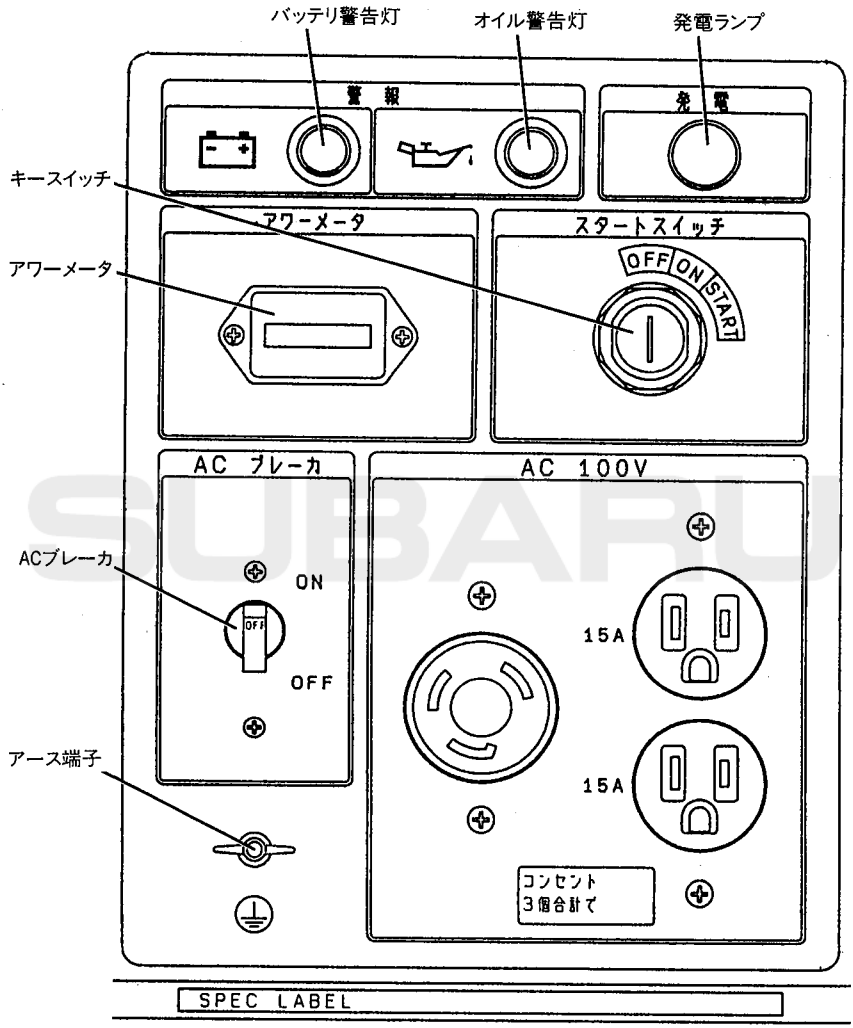
・スバル投光機以外の投光機に使用する場合には、機種によって消費電力が使用範囲を越えると（交流ブレーカが「OFF」、またはエンジン回転低下）があります。低力率の安定器や400Wを越えるランプは推奨できません。
消費電力（電流：A×電圧：V）を確認の上、使用下さい。

・一般高力率タイプ安定器の投光機（400W×4灯）を使用する場合、3～4灯目の点灯は、1～2灯目のスイッチを入れてから5分以上待ってください。
(SGD2200S-Ⅲ、3000S-Ⅲ共)

4 運転時間の制限

1回15分以下の短時間運転を繰り返すとバッテリは放電傾向になります。

5 コントロールパネル



SUBARU

(1)オイル警告灯（赤）

・運転時にクランクケース内のオイルが規定量以下になってエンジンの油圧が低下すると点灯し自動的に停止します。

・エンジンの停止と同時に(2)項目のバッテリ警告灯も点灯しますので、一旦、キースイッチをOFFにしてから再始動し、「オイル警告灯」の点灯後、自動停止することを確認の上オイルを点検してください。

・オイルを補給する場合はレベルゲージの上限マークまでにしてください。

・発電機を傾斜させて運転すると、クランクケース内のオイルの油面が変化し誤作動することがあるので極力水平状態にて運転してください。

・オイル劣化に対しては検知しませんので注意してください。

・オイル補給後も警告灯が消灯しない場合はお買上げの販売店に点検、修理を申し出てください。

(2)バッテリー警告灯（赤）

・運転時に充電回路が不良（充電コイル断線等）になると、点灯します。運転は継続でき、又、バッテリ容量が十分残っている間はキースイッチによる始動、停止もできます。(バッテリは約9時間の運転で1AHづつ放電します)

・バッテリが放電してしまうとキースイッチでの停止が不可能になりますので点検扉内の非常停止レバー（P14参照）で停止させてください。

・点検、修理はお買上げの販売店に申し付けてください。

・バッテリは12V24AH以上のものを使用してください。

(3)発電ランプ

・運転中、ACブレーカをONすると点灯します。

(4)アワーメータ

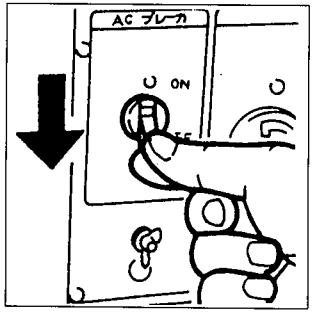
・運転中はACブレーカをON、OFFに係わらず作動します。

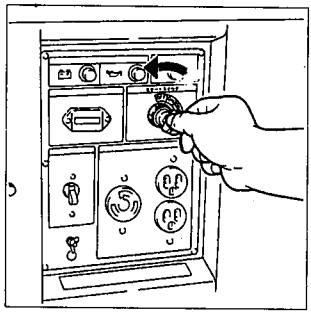
・各桁の円盤は1時間で1回転します。

6 発電機のとめ方

(1)接続した電気器具のスイッチを切り、コンセントを抜いてください。

(2)AC（交流）ブレーカを「OFF」にしてください。



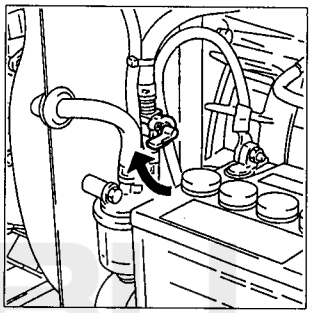


(3)キースイッチを「OFF」位置にして、エンジンを停止させます。

〔注記〕

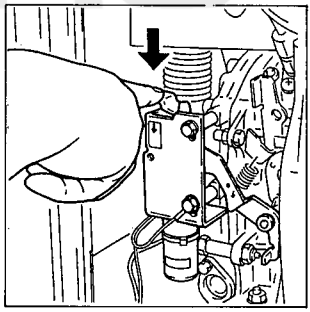
(1)キースイッチ操作後約20秒間は停止レバー動作のため、ストップソレノイドを保持（通電）させています。

(2)10数秒間以下の運転と20～30秒間以下の停止を繰り返しますとストップソレノイドが焼損することがあります。



(3)燃料コックを閉じる場合

点検ドアを開けて、燃料コックを「CLOSE」位置に合わせます。



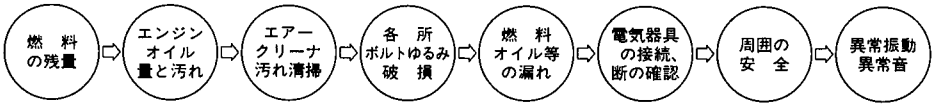
※非常時の発電機のとめ方

エンジンスイッチの停止操作で発電機が止まらなかった場合には、点検ドアをあけて赤いレバーを下方へ、発電機が止まるまで押し続けてください。もし、このようなトラブルが発生した場合には、お買い上げの販売店にご相談ください。

6. 定期点検

1 日常点検

ご使用になる前に是非、次の点検を行ってください。



2 定期点検と修正（普通の状態で使用されている場合）

(1)燃料パイプ類は1000時間又は2年毎に交換してください。
尚、点検時漏れ等のあるものは、これらの時期を待たずに交換してください。
(2)分解、清掃時、所定時間に満たない部品でも不測のトラフルを防ぐため、早目の修正又は、交換を薦めます。

3 点検整備表の◎印は販売店又はサービス工場に申し付けください。

SUBARU

点検・整備表

項　　目	点検・整備時期
〈始業点検と簡単な点検整備〉	
エンジンオイルの点検と補給	……規定量最大まで補給
燃料の点検と補給	……規定量最大まで補給
各部清掃及び締付点検	
キースイッチの点検	
コントロールパネル取付部品の点検	始業時
交流（AC）コンセント	
交流（AC）ブレーカ	
アワメータ	
各種表示ランプ	

〈定期点検と修正〉

運転時間	8Hr毎日	50Hr毎週	100Hr毎	300Hr毎	500Hr毎	1000Hr毎	1500Hr毎
各部油漏れ、燃料漏れ点検	○						
各部締付け状態の点検	○						
エンジンオイル点検・補給	○（毎日規定量最大まで補給する）						
エンジンオイル交換	（初回25時間）		○				
エアークリーナの清掃			○				
オイルフィルタの洗浄			○				
バッテリ液量の点検			○毎月				
燃料フィルタ水抜き・交換				○水抜き		○交換	
ノズルの点検・清掃					◎		
ロータの点検					◎		
ステータの点検					◎		
シリンダヘッド内の清掃					◎		
バルブクリアランスの点検・調整					◎		
エンジンマウントの交換						◎	
吸排バルブ座点検・摺合わせ						◎	
オーバーホール							◎

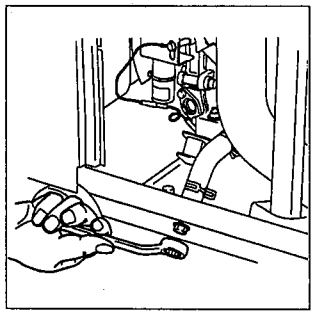
※オイル交換の際に排除したオイルは正しい処理を行い屋外の川や下水道、庭などに流さないでください。

7. 整備要領

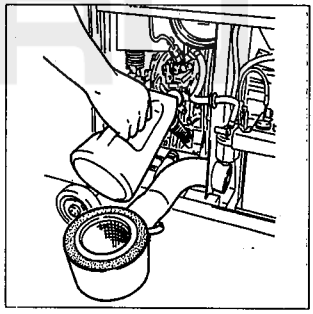
1 エンジンオイルの交換

〈オイル交換時期〉
初回：25時間後　　以後：100時間毎
〈使用オイル〉……「エンジンオイルの点検・補給」参照

※エンジンオイルの質および量を低下させると焼付損傷をまねきます。

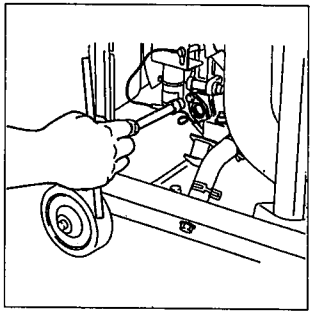


〈オイル交換方法〉
(1)ドレンプラグを外し、オイルを抜きます。
（エンジン停止後の暖かいときまたは、オイル給油キャップを外すことで早くきれいに抜くことが出来ます。）
(2)オイルを完全に抜いた後、ドレンプラグを確実に締め付けます。
（新しいオイルを入れる前にオイルフィルタの洗浄をしてください。）
(3)発電機を水平に置いて、オイルゲージの上限位置まで新しいオイルを入れます。
【注記】エアークリーナケースを外し、ゴムブーツと一緒に点検ドアの外に預けることで、オイル点検補給が容易に行えます。
(4)オイル注入後、オイル給油キャップを確実に締め付けます。



2 オイルフィルタの洗浄

・オイルフィルタの網目の内側にゴミが付着しますので、軽油できれいに洗浄します。
（オイル交換時には必ず洗浄してください。）



3 エアークリーナの清掃

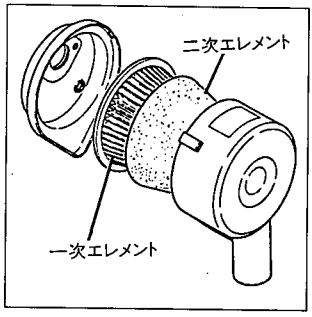
エアークリーナエレメントの汚れがひどくなるとエンジンの始動不良、出力不足等、運転に不調をきたすばかりでなく、エンジンの寿命を極端に短くします。

SUBARU

いつもきれいなエアークリーナーエレメントにしておくよう心がけてください。

・100時間運転ごとに分解し、1次および2次エレメントを石鹸液でよく水洗いし、乾燥させてから組付けてください。

・特にほこりの多いところで使用する時は、状況に応じて30～50時間運転ごとに清掃してください。



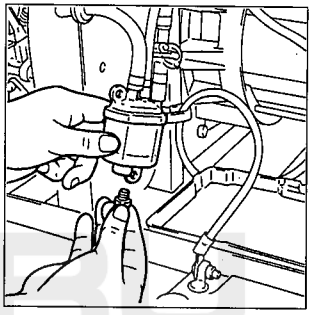
4 燃料フィルタの水抜きと交換

・噴射ポンプは、非常に精密にできているため、燃料の中に塵埃や水が混入すると、プランジャーに傷をつけたり、最悪の場合には焼付きを起す原因となります。

・燃料フィルタは300時間運転ごとに水抜きをし、1000時間ごとにフィルタアッセンブリを新品と交換してください。

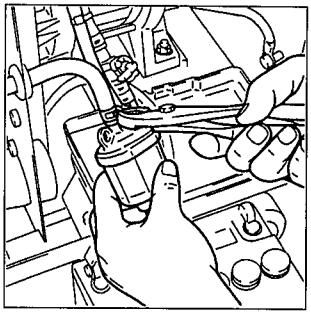
・燃料コックを「閉」にし、燃料フィルタ下部のドレンボルトを外して、水（燃料）抜きをします。

・清掃後は、燃料コックを「開」にし、エアーが自動的に抜けるまで1分ほど待ってください。



5 燃料ホースの交換

燃料ホースは1000Hr又は2年毎に交換してください。尚、点検時漏れ等のあるものはこれらの時期を待たずに交換してください。



6 バッテリの保守と交換

・液レベルが下限線に近づいたら上限線まで蒸留水を補給し、レベルを揃えてください。

・端子廻りやトレイの台が腐食したら熱湯をかけた後グリスやオイルを塗布しておくと効果的です。

・乗せ換え可能なバッテリは次の3タイプです。

26A19L、28A19L（メーカ仕様）、32A19L

SUZUKI

8. 長期保存のしかた

1 発電機を長期間（6ヶ月以上）使用しないときは

(1)燃料コックを「閉」の位置に合わせます。
(2)バッテリーケーブルを外します。
(3)屋内の湿気の少ない換気のよい所へ保管してください。

・バッテリーは使用しないときでも、自然放電します。月に一回くらい充電をしておいてください。

・水圧をかけての水洗いは、絶対にしないでください。

2 長期保管後に使用するときは

(1)発電機の各部を油布で清掃します。
(2)エンジンオイルを点検・交換します。
(3)エアークリーナエレメントを清掃します。
(4)各部のボルト・ナットに緩みがあれば増締めします。

SUBARU

9. 故障のときは

発電機が始動しないときや、始動しても電気が取り出せないときは、まず次の点検を行ってください。

1　始動しないときは

燃料タンクに燃料が入ってますか？	→	ない場合は燃料を補給します。
電気器具が接続されていませんか？	→	接続されている器具のスイッチを切るか、または、コンセントを抜きます。
エンジンオイルが不足していませんか？（運転中にオイル警告灯点灯）	→	不足している場合は、オイルレベルの上限まで補給します。
バッテリが逆に接続されていませんか？(キースイッチONでオイル警告灯のみ点灯し、スタート位置で何も作動せず)	→	標準はバッテリの左奥にプラス端子が位置します。ここに赤色印のケーブルを接続して下さい。右奥がマイナスで無印のケーブルを接続します。
バッテリーが弱っていませんか？	→	バッテリーを充電するか、新品と交換します。
燃料コックが「CLOSE」の位置になっていませんか？	→	「OPEN」の位置にし、１分程待ちます。
燃料フィルター内に水が混入していませんか？	→	注意ラベルの要領に従って水を抜きます。

2　電気が取り出せないとき

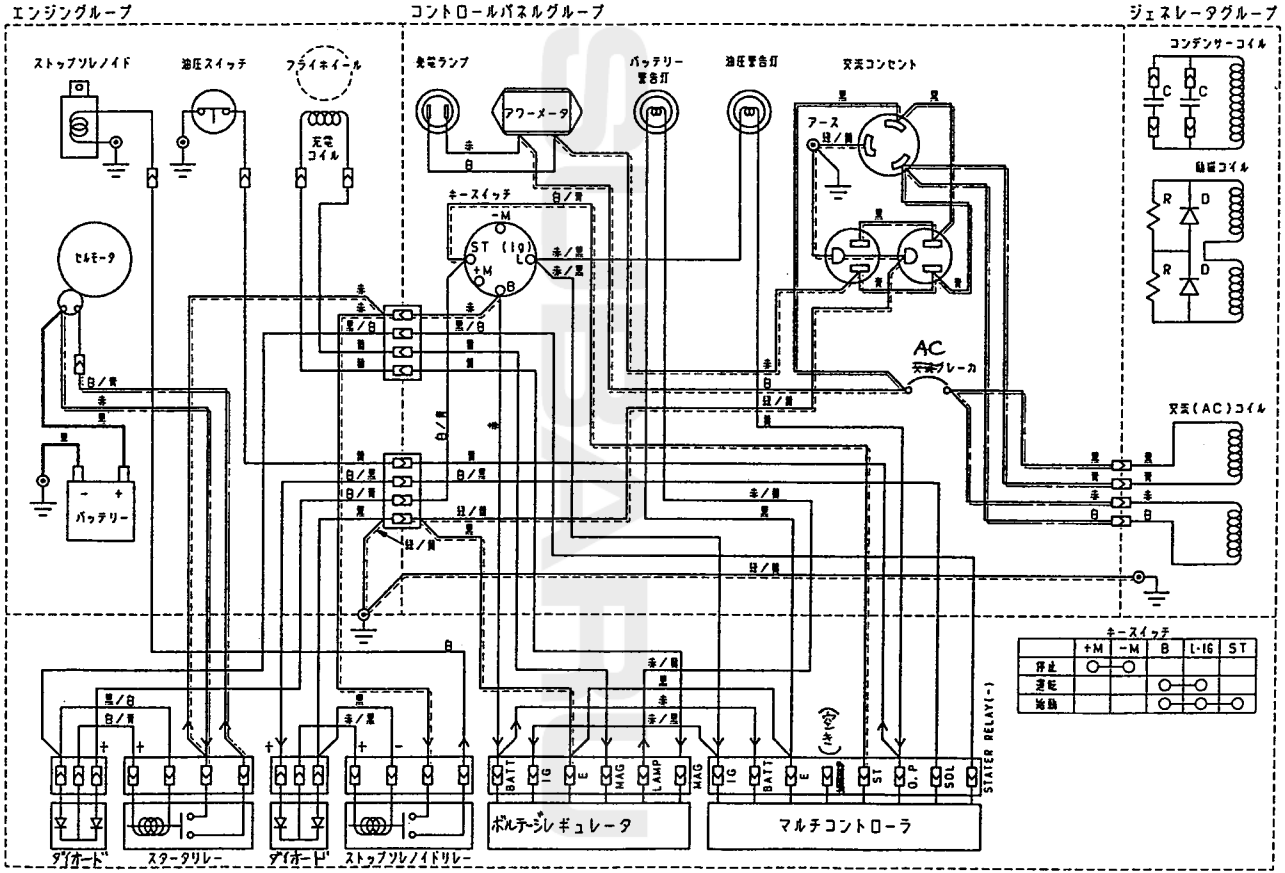
交流（AC）ブレーカが「OFF」になっていませんか？	→	ブレーカを「ON」にし、発電ランプの点灯を確認します。
電気器具の接続がゆるんでいませんか？	→	交流コンセントの接続を確実にします。
電気器具を接続したまま、始動していませんか？	→	一度、電気器具のスイッチを切るか、または、コンセントを抜いて始動します。

☆以上の点検を行っても、発電機が正常に運転できないときや、その他の故障の場合は、お買い上げの販売店に点検、修理を申し出てください。

1)始動時、キースイッチを「ON」の位置にして、「バッテリー警告灯」「オイル警告灯」が点灯せず問題なく運転できた場合には、電球切れですので純正品または、相当品（18V-3W以下）に交換してください。
電球はスプリングロック式です。表面の樹脂カバーを左廻して外し、外部から交換できます。

SUBARU

SGD2200S-Ⅲ型発電機配線図
SGD3000S-Ⅲ型発電機配線図



ISSUE EMD-GU6403

SUBARU

富士重工業株式会社
産業機器カンパニー
〒364-8511 埼玉県北本市朝日4-410
TEL 048-593-7857
TEL 048-593-7965
http://www.fhi.co.jp/robin/